

## 理数的な視座から未来を拓く リーダーの育成を目指す。

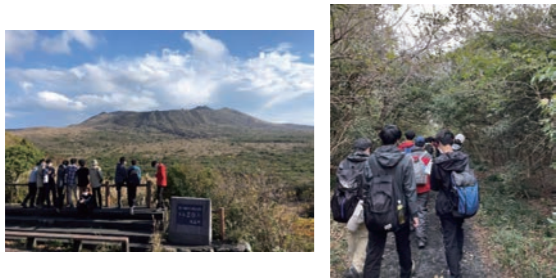
先端科学に携わる研究者や様々な業界を牽引するリーダーの育成を目指しています。そのために魅力あるフィールドワークや外部連携講座を設定し、探究過程で必要な資質・能力を育む課題研究活動の充実を図っています。



### 本校で実施しているフィールドワーク

#### 理数科で実施している フィールドワーク

##### Field Study (理数科1年)



火山活動による植生の破壊からの遷移(回復過程)や、噴出物等の生い立ちを探り、探究心と必要な知識、想像力を育てるフィールドワークです。  
伊豆大島にて2泊3日で実施。三原山噴火口や海浜植物、地層断面観察等、自らの主体的な活動を通して知識を深め、自分の考えを伝える能力・表現力の育成を図る活動を行っています。

##### SS-Field Study (理数科2年)



雄大な自然の中での実習や大学等の研究機関の協力を得て科学技術の発展やその背景を学び理解を深める等、幅広い実習を通して、将来グローバルに活躍できる資質や能力を育成するフィールドワークです。  
アメリカ・ヨセミテ国立公園を中心に例年6泊8日で実施。本年度は、渡航制限により、屋久島・種子島・西九州での研修に変更し実施しています。屋久島実習では土壌、植生、植物の生活系の観察など野外実習を行い、種子島実習ではJAXAを見学し宇宙開発についての先端科学技術について学びました。また、西九州実習では、雲仙普賢岳の実際の火砕流被災地区での研修等、様々な見識を深める実習を行っています。

#### 普通科の生徒も参加できる フィールドワーク

##### SS-Science Camp I (1年希望者)



自然観察の実習や研究施設の見学を通して、様々な研究の基本的な手法等を学び、科学全般的な知識を深め、科学への興味・関心を高めるフィールドワークです。  
茨城県つくば市にあるJAXA・高エネルギー加速器研究機構をはじめ、茨城大学、茨城県自然博物館での研修を通して、科学全般的に知識を深めるだけでなく、フィールドワークの楽しさを感じることができます。

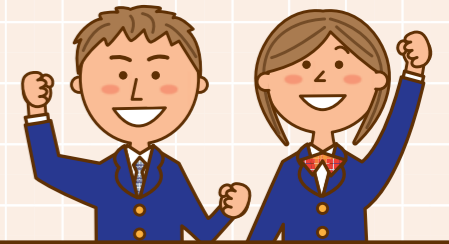
##### SS-Science Camp II (普通科SSHコース)



自然の事物・現象に対して、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに理解を深め、生徒の科学的な自然観を育成するフィールドワークです。  
黒部・立山を中心に、例年3泊4日で実施。立山カルデラ砂防博物館等と連携し、氷河及び氷河地形、火山地質、植生動物等、座学で得た知識を使いダイナミックな現象の観察を行い、知識や理論を目の前の事象に適応させる実習を行っています。

## 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローバル型)」への取り組み

グローバルな視点を持って地域を支えるリーダーを育成するため、地域や企業と連携し令和元年度から本事業に取り組んでいます。



### 1. 令和3年度の取り組みについて

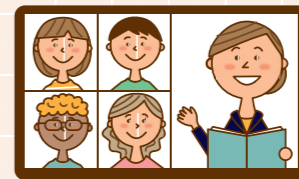
高校1年生は、「身近な問題から千葉市を考える」視点から千葉市創生プロジェクトに取り組んでいます。7月にフィールドワークを行い、その結果をもとに校内発表会を実施しました。発表会では、生徒たちは千葉市内の身近な課題についての解決策を提案しました。高校2年生は、11月にグローバルプレゼンテーションを実施し、SDGsの視点から見いだした様々な課題への解決策を英語で提案しました。また、キャリア教育の一環として、12月に成田国際空港株式会社を訪問しました。

### 2. オンラインでの試み

新型コロナウイルス感染症の影響がある中、オンラインを活用して、工夫した教育活動を行っています。

#### ①ハイブリット授業

9月の緊急事態宣言中、感染予防のために生徒を半分に分けて、登校しての対面授業と自宅からパソコンやスマホなどを通して授業に参加する対面式オンライン授業の両方を行うハイブリット型の授業を実施しました。



なお、本校では昨年度から校内においてICT機器の積極的な活用のため様々な取り組みを行ってきました。  
高校1年生の総合的な探究の時間では、10月の発表準備に向けて、自宅の生徒はパソコンやスマホなどから話し合いに参加するという形で、グループ活動を行うことができました。



#### ②国際交流

令和3年2月にユネスコ主催のプログラムで、本校の国際教養科2年生と韓国の教職員との交流を行いました。その交流に参加していた先生から、生徒同士の交流ができないかとお話をいただき、韓国の蔚山科学高校の生徒と、希望者がオンラインで交流を行いました。英語で自己紹介や気候変動の危機的な状況に対する解決策や実践策について活発なディスカッションを行うことができました。



### 3. 今後の取り組み

文部科学省からの指定を受けて、地域との協働体制の構築と探究活動の深化につとめてまいりましたが、指定が終わっても、この3年間で培った協働体制は継続し、これまでの取り組みを活かして令和4年4月に開校する稲毛国際中等教育学校の探究活動につなげていきます。

稲毛国際中等教育学校では、総合的な探究の時間・学習の時間を「Inage Quest」と称し、6年間連続の探究活動を行っています。

これまでご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。引き続き、本校へのご支援をよろしくお願いいたします。